

日時 平成 31 年 2 月 19 日 (火) 15:30~17:00

場所 校長室

1. 開会
2. 校長挨拶
3. 事務局報告

①各分掌、科と系より 資料（次第中） 組織目標達成状況を説明

教務部・生活指導部・進路指導部・保健人権部・総務部・普通科・産業創造系・機械系・電気系

②佐野工科地域コンソーシアムの報告（教頭）

③校長より「平成 30 年度 学校経営計画及び学校評価」の報告

「平成 31 年度 学校経営計画及び学校評価」の説明

4. 全体協議

○いじめに対しての具体的な対応はどのようにしているのか。（子どもは親に言わないので）

Ans. 生活指導部の対応は加害者と被害者、また周囲にいるクラス生徒の話聞き取るなど全体の話から判断していじめの場合は懲戒指導をする。また、被害者に対する心のケアは保健人権部と協力の体制をとり、加害者には何が悪かったか、どういうことが嫌だと感じるかを理解させ反省させる。担任も立会いのもと、通常の学校生活に戻した後も注意して見守りや声かけを行っている。

原因としては悪意のあるものというより、幼さからくるからかいなどからトラブルになるケースがほとんどである。保健人権部では見えないところで起こるいじめ早期発見のため、いじめチェックアンケートを行っている。項目の中には「学校での居心地はどうか」「聞いてほしいことはないか」など欄もあり、記入内容から聞き取りを行い、その記述内容に基づいて個別の相談窓口やスクールカウンセラーの活用を勧めるなどをおこない、不安を取り除く方策を講じている。

○いじめチェックアンケートの用紙（項目のみ）を参考までに見せてほしい。

⇒後に渡す

Ans.（説明）アンケートの実施の前には、具体例を読んで聞かせ、認識させてから行っている。

○オープンスクールの成果もあったようであるが、広報活動は地域性から目的を絞りやすいのではないかと。また、今後募集定員はどのように変わっていくのか。

Ans. 本校の生徒については岸和田以南から 95% 来ており、地域性が強い学校である。募集定員は、次年度は 240 名、その次は 210 名になる。

○志願者倍率を上げるべく今後も努力を続けてください。

○学校教育自己診断のアンケート項目で、不満回答に対してはもう一段階深めた選択肢を作るのはどうか。

Ans. 項目内容の見直しは必要であると考え、自由記述式もとっているが、項目を増やしすぎると数値の信頼性に疑問が出る可能性がある。基本的には教育庁の指針に基づいた質問項目にしている。

○佐野工科高校の「他校にはない特徴」とは具体的にどのような内容を表しているのか。

Ans. そもそも本校は特徴的な学校であり、一般的に専門的な分野の学習内容や活動を特色として意識してもらっていると思う。

○今年度は商工会議所からの依頼の商工祭参加や泉佐野駅上商店街アーケード下でのイベントを快く引き受けてくれた。その際の新聞 PR やファッションショーでは遅い時間まで活動した生徒の皆さんが自信をもってやってくれたことが良かった。

Ans. 今後も地域に根付いた活動を通して市民の理解を得、評価してもらえよう続けていきたい。

○電気工事士や DD 3 種など多数の生徒が合格し、役に立つ仕事に就けることは、一人前の社会人になったときの一生誇れるものであると思う。また、ものづくり検定など事業所も評価していることに特化して学べる

工業高校の強みも活かして行ってほしい。

○支援生徒への懲戒指導方法の模索とあるが、これをもう少し詳しく教えてほしい。

Ans. ノートに書くという課題がある中で、書くことが苦手な生徒が1人でやっていると期日内に終わらせることができない場合がある。家庭謹慎中であっても学校に来させて教員が面倒を見るという状況が多くなってきた。与えられた課題を普通にできるか支援しないとできないかをどのタイミングで判断するか、また、課題についてもいろいろな内容や方法を考える必要もある。

○再編整備が行われるとどのように変わるのか。

Ans. 何かを創り出す能力を持った者を育てることが今後の工業教育に求められている。3年生の課題研究という科目の中で、以前のように技術の修得、活用のみに終わるのではなく、トライ&エラーを重ねて物を創り出す力を育てる必要がある。その活動を3年次にできるよう、1年生からどのように育てていくのかについての検討を今行っているところである。

5. まとめ

6. 校長挨拶

7. 閉会